

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873100903		
法人名	社会福祉法人 博友会		
事業所名	フロイデグループホーム桂		
所在地	茨城県東茨城郡上阿野沢545-1		
自己評価作成日	平成26年4月20日	評価結果市町村受理日	平成26年8月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

フロイデグループホーム桂は地域密着型施設として、地域住民が開催する行事等にご利用者様、職員共に積極的に参加している。また、当事業所にて開催しているイベント等も地域住民への声掛けを行い参加を呼び掛け、地域との関係構築に力を注いでいます。介護施設に在りがちな曜日や時間に縛られることが無いような入浴・食事等サービスの提供が出来るよう日々創意工夫しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年設立の当ホームは地域と長年の付き合いがあり、地元町民祭への参加やお茶摘みへ招待していただいたり、ホームに地元住民を招いて梅の実収穫をする等は恒例となっている。さらに地元消防団の協力を得ながら一緒に消防訓練・避難訓練を実施しており、地域住民が参加して利用者の避難誘導の手伝いをしてくれる等、親しい関係ができています。
地域に馴染んだホームは、玄関前に大きなテントを張って利用者だれもが常に戸外に出て外の景色を眺めながらお茶を楽しんだり、レクリエーションに興じたりしており、それぞれが楽しみと役割をもって生活できるようにとの工夫が随所に見られる家庭的なホームでもある。また母体法人が医療機関ということもあり医師・看護師・職員の連携が良く、利用者は健康管理においても不安なく過ごせるよう見守られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を地域やボランティアにも理解してもらえるようパンフレットを地域(役場など)に配布している。	法人の理念を基にホーム開設時に全職員でホーム独自の運営理念とケア理念をつくり、玄関や廊下の見やすいところに掲示して全職員での共有を図っている。職員それぞれが理念にそったケアを身につけており、困ったときには自然と理念を意識しながら話し合いをし、常に理念に基づいたケアの実践をしている。	平成15年に作られた理念はホームの特色を成す大切なものではあると思われるが、全職員で地域密着型サービスの意義や事業所の役割等について改めて確認しながら新しく理念・目標などについて話し合われることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元商工会に加盟し、地域行事やイベント等に参加している。	開設以来の地域住民とのお付き合いは深く、地元町民祭には模擬店を出したり、敬老祭には地域の高齢者を招待するなど地域の方々からはたいへん感謝されている。また地域住民の茶畑でお茶摘みをしたり、ホームの梅の実をおすそ分けする地域の一員として自然な近所付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域イベント時等に個別説明会などの場を企画して、地域の方々の声を聞けるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月毎)に運営推進会議を開催し、行政及び地域の方々から意見を頂き、運営に努めている。	家族や地区長、近隣住民、町担当職員(3名)などの出席で2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの活動状況を報告すると共に出席者から地域の祭りの情報等を頂き、ホームの活動に役立っている。運営推進会議をとおして地域に理解者・協力者が多くなり地域との結びつきがより深くなっている。会議の議事録はホームを訪れる人が何時でも見られるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議だけではなく、毎月定期的に行政(地域包括支援センター等)に訪問し情報収集、連携を絶やさないようしている。	町の担当職員は運営推進会議などを通してホームの活動状況を十分承知しており、何時でも相談できる関係ができています。町内で唯一のグループホームであり、認知症ケアの中心的存在でもあり、常に町の包括支援センターとは連絡を取り合う良い関係ができています。介護認定調査時にも管理者・担当職員が丁寧に対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の持てる力を最大限に引き出すケアに取り組む、玄関の施錠や身体拘束など行動を制限する取り組みは常時行っていない。またその取り組みに対して意思も契約書等に盛り込み家族に説明している。	法人で組織する教育委員会(9つの委員会がある)で毎年身体拘束についての研修を実施し、全職員が身体拘束について常に正しい知識を学び拘束のないケアを実施している。門をでると近くに国道が走っていることから、玄関を出て門までの間に扉を設け、ストレートに道路に出ない工夫をして安全を確保する等、閉塞感のない暮らしへの工夫がしてある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に対しての法人内にて勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者権利擁護に対する法人内にて勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の締結、解約などの対応は管理者が行い、利用者や家族の申し出に対しても理解頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対して面会時予備家族会時などに意見を聴取できる環境を作り、実際に意見を反映した取り組みができています。	アンケート調査による家族の意見等を取り入れる取り組みは毎年実施している。日常的には、家族会で運営推進会議の報告をしたり、毎月のホーム通信で個別の写真・コメント等を入れてホームを身近に感じていただけるような取り組みをして忌憚のない意見・要望等を出しやすいような配慮をしている。また、面会に来られない家族には電話で日々の様子を知らせながら要望などを気軽に話して頂けるよう努めている。頂いた要望などは職員で検討し外出計画などに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的(1ヶ月毎)に事業所内のミーティングにおいて職員からの意見を聴取し運営に反映している。	管理者は職員一人ひとりに声かけする等積極的に働きかけ意見や提案を聴く姿勢を示している。管理者自身も玄関前に大型のテントを張って外でお茶を頂いたり、レクリエーションを楽しめるような工夫をしている。毎月の会議や日々のミーティングは話しやすい雰囲気があり、布団干しなどの備品購入は必要に応じて職員の提案が取り入れられている。またホーム周辺の環境整備などを職員が率先して実施する等ホームの運営に職員が積極的に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上期、下期に職員の目標意識を持たせる取り組みとしたチャレンジカード等を記入して、職員の取り組みを評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内においては毎月勉強会を実施しスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所としては茨城北西総合ケア学会に参加し研修などに参加している。法人内の研修会等を通して他事業所との情報共有の場に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人または家族の元へ訪問し、ご利用者様の声(要望、不安)など相談を受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に本人または家族の元へ訪問し、ご家族様の声(要望、不安)など相談を受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅利用時の様子や周辺症状など他のサービス提供(居宅介護支援センターなど)と密に連絡調整し利用時に必要とされるケアの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや掃除等できることを一緒に行い、お茶摘みや作物の収穫など喜びを分かち合うなど事業所内での生活の中で共に協働している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちに配慮し、施設に入所されながらも関係を継続できるよう日常の様子のお知らせや外出支援などを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族及び地域の方など面会等の際には特に制限することなく対応している。	ホームから自宅が見える利用者や、地元で長年仕事をしてきた等地域とふかかかかわっていた利用者もあり、友人・知人が訪ねてきたり、散歩の途中で話し込んだりと、常に自宅に居た時と同じような関わりが出来るよう支援している。利用者にとって馴染みの小学校の運動会や地域の祭りなども一緒に楽しみ、これまでの関わりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の環境の中で、なじみの関係が出来やすいように環境(居室、座席など)に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設退所後も必要に応じて相談・助言などを行える体制が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中から自然な形で思いを引き出すように関わっている。家族面会時には両者交えた会話の中から聞き出し介護支援専門員がアセスメントを行っている。	日頃の何気ない会話の中から耳にしたことや表情などを「ひもときシート」に記し、カンファレンスやミーティング時に全職員で話し合い、それぞれの思いや希望を把握している。特に入浴時やお茶の時間等、職員と1対1になった時や本人がリラックスした時などに職員は注意深く接し、本人の思いに寄り添うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用時に本人、家族から可能な範囲で聞き取り、事前情報を加味しながら相談記録に記載する。入所後も随時語っていただけるような会話を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が常時、ご利用者様に声を掛けたり表情や行動観察することを習慣化して気づいた点をカンファレンスで出し合い検討し、サービス計画書に反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中から把握している個別の情報や検討課題、或いは本人、家族の意向などを基に随時話し合い、即実行し、ミーティング等で周知する場合やカンファレンスで検討、決定し計画書に反映させている。状況によっては医療スタッフその他の関係者に助言を求めることもある。	本人や家族の意見を取り入れ、職員の気づきやアイデアを反映した丁寧な介護計画が作成されている。それぞれの介護計画は生活習慣や楽しみ事、役割等が具体的に示され暮らしに反映できる計画になっている。全職員によるカンファレンスやモニタリングが実施され利用者の状態に合わせた随時の見直しや定期的な見直しも丁寧に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に常時記録し、ニーズの変更はその都度個人ファイルの所定の書類に記録しておき、アセスメントシートに変更記録を載せる。また、ミーティング、カンファレンスでも検討記録し、計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの受け入れなど地域住民に対しても柔軟に施設を開放し施設の機能を十分に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(地元図書館、商店など)を常に発掘し把握することで日常のケアの中に取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望に対して、定期的な受診の介助を実施している。本人及び家族の置かれている現状を理解し柔軟な対応ができています。	特別な疾病のない利用者は協力病院をかかりつけ医としており、月2回の往診と年2回の健康診断を実施して、疾病等の早期発見・早期治療に努め、常に良い健康状態で過ごせるよう支援している。専門医への受診なども含め往診・受診の結果はケース記録にその都度記録し、本人・家族・職員が共有している。	受診記録はケース記録に丁寧に記されているが、緊急時などに備えて、本人の疾病名・病状・受信日などを時系列的に分かりやすく記録した「受診記録」のような独立した書類の検討を期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の状態異常時または定期的な変化に対して助言・指示を受けられる体制を整え、ご利用者様にとって最善のケアを提供できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の状況または退院時の状況などを病院相談員等との定期的な連絡を実施している。また早期隊員だけでなく状態に応じた適切な医療機関等への情報提供などの対応も実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としては終末期ケアに対して対応はしていないが、終末期ケア対応が可能な施設の案内や説明及び受け入れ調整などを行い家族に対しての精神的なケアも実施している。	ホームでの看取りは実施していないが、重度化した場合の対応に係る指針はできており、看取りについては医師・職員・家族と一緒に援助方針を話し合うこととしている。職員は職員勉強会などをおして介護技術の向上を図り、また往診の医師から指導を受けながら重度化した利用者へのケアを丁寧に実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的なAED講習、救急法など研修を実施している。また急変時の連絡先など周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	防災訓練を定期的実施し、防災意識向上に努めている。	定期的な避難訓練を消防署と協力しながら実施している。地域の消防団と繋がりができ、一緒に避難訓練が行われている。地域住民との協力関係も出来ており、避難訓練の際には地元住民も参加して利用者の避難誘導の手伝いをしてきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体でプライバシーマーク取得・更新を随時行いプライバシーの保護に徹底している。またボランティアなどの受け入れ時には移動範囲など動線にも配慮している。	一人ひとりがその人らしく誇りある暮らしができるよう、これまでの生活習慣や役割を大切にされたケアを心がけている。職員の声かけ・接し方などは丁寧で、利用者は庭の手入れ等趣味を楽しみ伸び伸びと生活している様子がうかがえた。個人情報の取り扱いも同意書を得た上で慎重に行われている。排泄や入浴介助には希望があれば同姓介助を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でも本人の希望や思いが伝えられるような働きかけを行っている。また、行事等を行う際も希望の聞き取り等もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で日課は無く、ご利用者様の状況に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昼間・夜間など生活にメリハリが出来るように更衣などに対して随時関わり対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては常にご利用者様の嗜好に配慮し、また季節感を感じられる食材を使ったイベントなどを計画し対応している。また食事やおやつなど一緒に作り、共に食べる事を基本に接している。	主菜はホームで手作りし、副菜は本部から届けられる仕組みになっており、季節感のある様々な食材が使われカロリーも計算された偏りのない食事が提供されている。利用者も出来る事を担当しながら食事の準備段階から一緒に楽しめるよう工夫をしている。また月1回は季節の食材を使いバイキング形式の食事をする等食事を楽しくするために様々な工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の嗜好に合わせて提供し、また落ち着いた環境で過ごせるように馴染みの食器を使うなど配慮している。また水分量を随時記入し把握することで状態に合わせて対応し、トータルコントロールを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科衛生士が来所して指導・助言を行っている。またご利用者様の要望なども加味した上で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、トイレ誘導等の排泄ケアを行っている。	一人ひとりのパターンに応じて声かけや・見守り・誘導などを組み合わせて日中は全員がトイレで排泄している。排泄の失敗時には程度に合わせて居室・トイレ・浴室などにさりげなく誘導し周りに気付かれないよう着替えなどを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬に頼り過ぎないように水分・食事及び活動などを促し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応、1週間の予定は作成しているが、その日の体調や気分等を尊重し、随時変更を行っている。	利用開始時は自宅での生活パターンにそった入浴時間に行っているが、ホームの生活に慣れてきたら、大まかに作られた予定の時間に入浴している。それぞれの体調や気分に合わせて入浴しているが週2回以上の入浴を目指し清潔に過ごしてもらっている。それぞれの入浴ごとにバスタオル・足拭きマット(タオル)を取り替え気持ちよく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なリネン交換の実施などを行い、常に清潔保持に努めている。また空調管理などご利用者様のニーズに合わせて個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋など変更時には職員に周知し、状態の変化などタイムリーに観察できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で屋内だけでなく屋外においても楽しみ(お茶摘みや梅の収穫など)を感じられるように環境の整備を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出できるイベントなどを計画し実施している。また個別の外出に対してもニーズに合わせて対応している。	日常的に畑の草取り・収穫、庭の手入れや散歩等外に出る機会を多くしている。また誰もが外気浴を楽しめるよう玄関前に大きなテントを張り、外気浴・戸外のレクリエーションが楽しめるような工夫をしている。行事としての外出は、利用者と一緒に外出先を考え、花見や外食・町民祭・小学校の運動会等に出かけている。その他個別の希望で買い物等の外出をしたり、家族の協力による外出も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所ではお預かりしていないが、本人で管理出来る方に対しては対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話に対しては特に制限なく対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の花や季節感の感じられる物品を多く配置している。	居間・食堂は中庭からのやわらかい光が入り落ち着いた雰囲気になっている。緑のカーテンも涼しげで外の風景も楽しめるように工夫されている。イベント等に活用する畳の間には昔懐かしい家具を置いたり、季節の花(アジサイ等)を飾ったり、間仕切り用のつい立は夏らしいトロピカル調の布で覆われている等季節感をだしながら落ち着いた生活ができるようにとの配慮が随所に見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には少人数で過ごせるスペースや腰を落ち着かせる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋室・和室が設定しており、本人の生活歴やニーズに合わせて提供できる。またご家族に協力していただき、馴染みの家具や物品などを設置し本人らしい空間作りに配慮している。	居室は和室。洋室があり、それぞれに物入れ、洗面台、小さな濡れ縁などが付いていて使いやすいつくりになっている。使わなくなった車椅子や夜間使用のポータブルトイレには布をかける等の丁寧な配慮があった。各居室の暖冷房は利用者が操作できるようにしてあり、利用者によっては丁寧な注意書きがあった。写真の好きな利用者の居室にはソファを置いてゆっくりアルバムを見られるようにしたりして、それぞれが居室においても充実した生活ができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内の環境の案内板などは形式的なものではなく、ご利用者様が見やすく理解しやすい言葉で統一している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	平成15年の開設時に掲げた理念であるため、“今”の状況に合った新たな理念・目標を掲げ、地域密着型事業所としての役割を果たしていく。	すでに確立された土台の上に新たな肉付けをすることで“現状にそくした新理念”を掲げ発信する。新しいパンフレットも作製し配布する。	これまでの運営記録、アンケートの結果、ご利用者の状態等、あらゆる角度から職員全員で検討し、地域における事業所の在り方を探り当て、分かりやすい言葉で表現する。	9ヶ月
2	30	ケース記録に記載している受診記録を、緊急時に備え、独立した受診記録を作りすぐに持ち出せるようにする。	各個人の疾病名、病状、受診日、バイタル等が分かりやすい記録様式を作る。	色々な記録様式を持ち合い、比較検討し最も記入しやすく、最も見やすい記録様式を探る。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。